

クマ類の個体数推定法に関するワークショップ

開催趣旨

日本の大型哺乳類の中でクマ類は、生息数が少なく増加率も低い種であり、取り扱いを誤ると絶滅の危惧が生じやすい。一方で、農林業被害だけでなく集落への出没や人身被害が大きな問題となっており、被害防止とともに適正な個体群管理が必要とされている。生息数の少ないクマ類の保護管理においては、個体数あるいはその指標をモニタリングすることが他の動物種以上に重要となるが、これまで現場で使用可能な精度の高い実用的個体数推定手法がなかった。

近年、クマ類の個体数調査手法としてDNAによる個体識別を利用したヘア・トラップ法が注目され、各地で調査が試みられてきたが、十分な成果が得られているとは言い難い。その原因は、日本の環境条件下における具体的な実施手法が確立していなかったことに求められる。

環境研究総合推進費「クマ類の個体数推定法の開発に関する研究」グループでは、日本における実用可能なクマ類の個体数推定法の確立を目的として、2009年度から3年間の予定で、岩手県北上山地を調査地としてヘア・トラップ法と代替え法としてのカメラ・トラップ法の検討を行っている。得られたデータは現在とりまとめ中であるが、研究の目的を達成できる結果が得られている。

今回のワークショップでは、ヘア・トラップ法とカメラ・トラップ法に関する研究成果を紹介すると共に、クマ類の個体数調査マニュアルの作成を念頭に置いて、これらの手法を現場に適応する場合の諸問題について意見交換を行う。

日 時

2011年10月17日（月） 14:00～17:30

場 所

富山国際会議場 大手町フォーラム 202号室
930-0084 富山市大手町1番2号 電話：076-424-5931
アクセス：<http://www.ticc.co.jp/access/index.html> 参照

プログラム（予定）

- 13:30～14:00 受 付
- 14:00～14:10 開会、あいさつ（富山県自然保護課）
- 14:10～14:30 クマ類における個体数調査の位置づけと方法論上の課題（常田邦彦：自然環境研究センター）
- 14:30～15:00 ヘア・トラップ法におけるDNA分析手法（鶴野レイナ：慶応大学）

- 先端生命科学研究所)
- 15:00～15:30 調査結果からどのように個体数を推定するか (深澤圭太：国立環境研究所)
- 15:30～16:00 カメラ・トラップを用いた個体数推定手法の開発 東出大志：新潟大学大学院)
- 16:00～16:15 休 憩
- 16:15～17:25 意見交換
「現場で使える調査方法とするためには何が必要か」

(終了後、希望者については簡単な懇親会を予定しております。)

主 催

(財) 自然環境研究センター 理事長 大塚柳太郎

後 援

環境省中部地方環境事務所
富山県自然保護課

申し込み

資料準備等の都合上、あらかじめお名前と所属を下記までお知らせいただくと幸いです。

問い合わせ先

110-8676 東京都台東区下谷 3-10-10
財団法人 自然環境研究センター
Tel. 03-5824-0963 Fax. 03-5824-0964
担 当 : 根本 唯 ynemoto@jwrc.or.jp
常田邦彦 ktokita@jwrc.or.jp